

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	16-106	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Alcohol Abuse and Cardiac Disease. アルコール中毒と心臓疾患		
<b>執筆者</b>		
Whitman IR, Agarwal V, Nah G, Dukes JW, Vittinghoff E, Dewland TA, Marcus GM.		
<b>掲載誌</b>		
J Am Coll Cardiol. 2017 Jan 3;69(1):13-24. doi: 10.1016/j.jacc.2016.10.048.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール中毒, 心房細動, うっ血性心不全, 疫学, 心筋梗塞		28057245
<p><b>要 旨：</b></p> <p><b>目的：</b>            心血管疾患は予防・治療が発展しているにも関わらず、米国では未だ死因の 25%以上を占めている。心房細動 (AF)、心筋梗塞 (MI)、うっ血性心不全 (CHF)といった心血管疾患に対して改善可能な危険因子を予防・治療標的とすることは重要な意味を持つ。米国において、アルコール中毒者は 1,000～1,500 万人にのぼるが、集団ベースの研究にてアルコール中毒の心血管疾患への影響を明らかにした報告はほとんどない。本研究は、アルコール中毒と AF、MI、CHF との関連を検討した。</p> <p><b>方法：</b>            The Healthcare Cost and Utilization Project(HCUP)のデータベースを用いて、2005 年 1 月 1 日から 2009 年 12 月 31 日までに通院手術、緊急または入院して治療を受けた 21 歳以上のカリフォルニア住民を対象とし、アルコール中毒の AF、MI あるいは CHF 発症リスクを検討した。また、心血管疾患とアルコール中毒との関連に影響する因子による層別解析およびアルコール中毒による心血管疾患の人口寄与危険割合の算出を行った。</p> <p><b>結果：</b>            全対象者 14,727,591 人のうち 268,084 人 (1.8%)がアルコール中毒であった。アルコール中毒者の心血管疾患発症リスクは、AF (ハザード比 [HR] 2.14, 95%信頼区間 [CI] 2.08-2.09,p&lt;0.0001)、MI(HR 1.45,95%CI 1.40-1.51,p&lt;0.0001)、CHF (HR 2.14,95%CI 2.08-2.09,p&lt;0.0001)いずれにおいても有意に高かった。交互作用の解析において、高血圧、糖尿病、脂質異常症といった心血管疾患の古典的危険因子を持たないアルコール中毒者で、AF、MI、CHF 発症リスクが高かった。アルコール中毒による心血管疾患の人口寄与危険割合は、肥満や喫煙などの他の改善可能な危険因子と同程度であった。</p> <p><b>結論：</b>            アルコール中毒は AF、MI、CHF 発症リスクを古典的危険因子と同程度増加した。また、古典的危険因子を持たない群で、アルコール中毒が心血管疾患リスクを高める可能性が示唆された。以上の結果より、アルコール中毒を軽減させることは、心血管疾患の減少につながると考えられる。</p>		